

I 自己評価

|   |  |   |
|---|--|---|
| <p>1 学校教育目標</p>   | <p>開拓者精神（創造・挑戦・協同）を校訓とし、高い知性、豊かな情操、健康な心身とたくましく生きる力を持った人間を育成する。<br/>                 (1) 知育・徳育・体育の調和のとれた生徒を育成する。<br/>                 (2) 基礎的、基本的な知識と技能を身につけ、向上心があり、知性を備えた生徒を育成する。<br/>                 (3) 個性豊かで、自己を律するとともに、自他をかけがいのない存在として認識し、協調性のある生徒を育成する。<br/>                 (4) 心身ともに健康な体の基礎をつくり、生涯健康で健やかな生活が送れるようにする。</p>  |   |
| <p>2 評価する領域・分野</p>  | <p>◇教育課程・学習指導・（情報管理）</p>   |   |
| <p>3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>   | <p>・生徒対象の学習指導に関するアンケートの「習熟度別授業や少人数授業が学習理解につながっている」の項目や、「授業の教え方や説明が分かりやすい」では、昨年より低くなっていた。保護者対象でも「授業を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」「学力が向上するように指導している」の評価が昨年度より低くなっている。ICTを活用した授業展開を積極的に行う教科も増えた一方、生徒の実態を把握し、授業改善の必要性を強く感じる。今後も、授業力のさらなる向上を図りたい。<br/>                 (情報管理)<br/>                 ・業務上、個人情報を取り扱うことが多いので、データ上のミスや情報の漏洩がないよう限定した担当者（複数）で取り扱い、細心の注意を払う必要がある。</p>                              |   |
| <p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>   | <p>◇学力の向上：基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てる。<br/>                 (情報管理)<br/>                 ◇校務の情報化を推進するとともに、データ取り扱い時の複数でのセキュリティチェックを行い、事故防止に努める。</p>   |   |
| <p>5 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>   | <p>・新入生への初期指導や学校全体での習熟度別クラスの編成、ICT機器の活用などによる個々の力に対応した授業の推進<br/>                 (情報管理)<br/>                 ・県の成績管理システムの有効利用と複数でのデータチェック<br/>                 ・セキュリティチェックシートによる、情報セキュリティ意識の向上</p>  |   |
| <p>6 目標の達成に必要な具体的な取組</p>  | <p>7 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>   |   |
| <p>(1) 授業改善、教科指導力の向上<br/>                 ・習熟度別授業の実施<br/>                 ・生徒による授業評価の実施と分析により指導計画の変更と見直し実践を行う。<br/>                 ・教職員の資質や指導力向上のため、授業研究・校内研修を組織的・計画的に実施する。<br/>                 (2) 学習指導の充実<br/>                 ・授業を大切に、家庭学習の定着を図る学習指導体制の推進<br/>                 ・朝読書・学習の実践<br/>                 (情報管理)<br/>                 (3) 情報セキュリティ意識の向上により、セキュリティ事故が発生を防ぎ、発生した際には適切な対応をとることができるようにする。</p> | <p>(1) 授業改善、教科指導力の向上<br/>                 ・生徒による授業評価の実施・分析により、授業改善に役立てることができたか。<br/>                 ・教職員の資質や指導力向上のため、授業研究・校内研修を組織的・計画的に実施できたか。<br/>                 (2) 学習指導の充実<br/>                 ・各分掌、教科、学年と連携し、学校全体で学力向上を図る体制づくりを行えたか。<br/>                 (情報管理)<br/>                 (3) 成績管理システムの運営は複数で行い、ミスがないようにする。<br/>                 生徒の個人情報についての入力、教科担任や担任の協力を得て、確実に行ってもらう。</p> |   |
| <p>8 取組状況・実践内容等</p>   | <p>9 評価視点</p>  | <p>10 評価</p>                                    |
| <p>① 授業改善、教科指導力の向上<br/>                 ・授業公開と研究授業の推進<br/>                 ・学校生活に関するアンケートの実施・分析<br/>                 ② 学習指導の充実<br/>                 ・ICT機器の活用を積極的に行い、指導をより</p>  | <p>① 分掌、教科、学年と連携し、授業改善を行えたか。また生徒による授業評価、授業研究・校内研修が授業改善に役立てられたか。<br/>                 ② ICT活用について、職員がそれぞれ習得・工夫した教材等につ</p>   | <p>A (B) C D<br/>                 A (B) C D</p> |

|  |   |                           |
|--|---|---------------------------|
| <p>充実させた。<br/>(情報管理)</p> <p>③ セキュリティチェックを利用して全職員の情報セキュリティ意識を高め、複数でのデータチェックを行い業務に反映させる実践。</p>   | <p>いて、職員間で共有し、生徒に還元できた。<br/>(情報管理)</p> <p>③ 職員の情報セキュリティ意識を向上させ、複数でのデータチェックを行いミスが発生しない。</p>  | <p>A (B) C D</p>          |
| <p>11<br/>成果<br/>・<br/>課題</p>  | <p>○習熟度別授業により、授業内容を生徒の実態に合わせることで、学力の定着につなげるよう努めた。<br/>○生徒による授業評価を行い、授業改善のために役立てる工夫をした。<br/>○教員のICT活用がより多くなり、工夫されたものになった。<br/>▲文理選択やコース選択について、早い段階から細やかに情報を与え、きちんと理解し選択するようになる必要がある。<br/>▲日常生活面での面談指導を多く取り入れ、全学年とも長期休業明けなどにも面談等を行い、生活面で配慮する必要がある。<br/>▲家庭学習の習慣づけを早期から行う必要がある。<br/>(情報管理)<br/>▲セキュリティ意識を常に高く持ち続けることが常時の課題である。<br/>○複数で確認しながら、教科担任や担任を通じて、しっかりチェックしてもらう体制(マニュアル)を作り、ミス防止の意識を高めてきた。</p> | <p>総合評価<br/>A (B) C D</p> |
| <p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>(1) 基礎力の確実な定着のため、スタディサプリなどの学習アプリを活用し、学び直しなど個々に応じた対応をさらに充実させる。<br/>(2) 生徒による授業評価の実施・分析し、授業計画を見直して実践し、授業改善を図る。<br/>(3) ICTの利用などで、生徒が自ら学ぶ授業になるような授業形態(能動的学習の構築)や授業内容を工夫・改善する。<br/>(4) 総合的な探究の授業やLHRを活用し、生徒が自ら課題を考え、探究する力を育成する。<br/>(情報管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報管理にあたる業務は複数であり、チェックを確実に実践する。</li> <li>・情報管理の専門的な業務においては、図書・情報部と協力し、研修などで人材を増やす。</li> </ul> |   |                           |

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月14日

|  |
|--|
| <p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒の実態把握とそれに応じた授業改善の必要性」に強く共感する。今の生徒は生まれたときからネットワーク社会で育ち、一方向のレクチャーを受けて知識を身に付けたり必要な情報を見つけ出したりすることは得意であるが、それらを関係づけたり既知のものに関連付けたりすることは不得手であるように思う。また、活字(メール等)での発信はできても、自分の主張や思いが相手に正しく伝わり、理解してもらえるように表現する力は十分とは言えず、授業においても大切にしたい視点の一つである。</li> <li>・学習指導の充実の評価が「B」であるが、コロナの影響もあって短い期間でタブレット端末が導入されて大変だったと思う。しかし、数年経てば小中学校時からICTに親しみ、ITに長けた生徒も入学するだろう。「A」を目指してほしい。</li> <li>・資質、能力の向上を目指して、習熟度別授業の実施やICT活用等の授業改善に尽力している。</li> <li>・生徒にとって学校生活のなかで最も長い時間は授業時間であり、「自分ならできる」という授業における自己効力感から学校生活における精神的な安定が生まれる側面がある。また、生徒を主語にした教育が強く求められるようになってきている。そこで、生徒による授業評価(生徒の率直な声)を活かした授業改善をいっそう進めてほしい。</li> <li>・どの教科のどの部分でつまづいているのかを見つけ、そこで十分な時間を費やすことで理解の流れがよくなる。</li> <li>・ICTの活用が進み、学習用アプリなどの活用で学び直しなど個々に応じた対応の充実させることはとてもよい取組である。</li> </ul> |
|--|

|   |  |   |
|---|--|---|
| 2 評価する領域・分野   | 生徒指導   |   |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒は、学習や部活動、生徒会行事等に熱心に取り組み、ルールを遵守し、校内外での挨拶を含め、規律ある生活ができている。</li> <li>ルールやマナー指導、身だしなみ指導に関しては評価を得ているが、いじめや差別に対する指導、薬物乱用や情報モラルに関する指導、体罰防止、公共心を育てる指導に関しては一層の努力が期待される。</li> </ul>              |   |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標  | (1) 集団生活における基本的な生活習慣を身につけさせる。<br>(2) 自他の生命・人格を尊重し、危険を未然に防ぐ能力を育てる。<br>(3) 規範意識を育み、ルールやマナーを守る生徒を育成する。<br>(4) 全職員の共通理解のもと生徒指導体制の組織を強化する。  |   |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制  | 職員、保護者、関係諸機関の連携を積極的に行い、生徒指導体制を強化する。また、学年会と連携して個々の生徒の生活指導にあたる。  |   |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組   | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標  |   |
| (1) 身だしなみ指導や遅刻防止指導、届出の徹底などを通して、規律ある生活態度を定着させる。<br>(2) 交通安全指導を通して、安全で安心できる生活のための啓発活動を行う。<br>(3) 諸問題に対して危機意識を持たせ、問題行動や被害などの未然防止に努める。社会生活を営む上で、ルールやマナーの遵守を呼びかける。<br>(4) 全職員による共通理解及び共通行動のもとで生徒指導が行えるようにする。   | (1) 遅刻者の状況や身だしなみ指導の結果から、望ましい生活習慣の達成度を確認する。学年会と連携して、日常的に生徒指導ができているかを確認する。<br>(2) 交通安全指導での様子や登下校時の交通事故や校内での生徒の様子から、生活状況を観察する。<br>(3) 落とし物や紛失物の様子から、貴重品管理や記名などの達成度を確認する。学年会との連携を図る。<br>(4) 情報交換会や学年会との連絡を密にし、ルールや申し合わせなどの周知徹底状況を確認する。 |   |
| 8 取組状況・実践内容等  | 9 評価視点   | 10 評価   |
| (1) ①生徒個々の遅刻回数の記録と個別指導。<br>②定期的に一斉身だしなみ指導を実施。<br>③身だしなみ確認カードで日常的に指導。<br>(2) ①登下校指導、自転車点検、交通安全講話、薬物乱用防止講座などを実施する。<br>②掲示用プリントや全校集会で不審者や迷惑行為、盗難などの情報を伝える。<br>(3) クラス掲示用プリントなどを配付し、全校集会や学年集会でルール・マナー遵守を啓発する。<br>(4) 職員会議や研修などで、ルールを周知する。   | (1) 遅刻の減少や身だしなみの改善などがみられたか。<br>(2) 交通事故や迷惑行為が減少したか。適切な対応がされたか。<br>(3) 安心して学ぶ環境作りに取り組むことができたか。<br>(4) ルールやマナーの遵守について機会を捉えて指導できたか。<br>(5) 全職員の共通理解のもとでの生徒指導はできたか。  | A (B) C D<br>(A) B C D<br>A (B) C D<br>A (B) C D<br>A B (C) D |
| 11 成果・課題  | 総合評価   |   |
| ○遅刻指導によって常習的な遅刻者及び全体数は減少した。(後半は増加傾向)<br>○ブレザー、ネクタイ、リボンの着用状況はよくなった。(11～4月は着用)<br>○自転車の運転マナー(右側通行や並列進行など)は改善されつつある。<br>○迷惑行為(嫌がらせ、器物破損など)は、ほとんど見られなくなった。<br>○送迎車の校内乗り入れ禁止により、危険度が大幅に減少した。<br>○不審者等の情報がすぐに生徒に伝えることで注意を促すことができた。<br>▲遅刻の数が学年によって差が大きい。(後半、3年生で増加。特定の生徒が過多。)<br>▲交通事故は自損事故を含めて1月までに19件。(昨年度22件、一昨年度37件)<br>▲(一部)保護者の送迎の車の正門及び東門付近での乗降が目立つ。<br>▲身だしなみ(特に女子のスカート違反)がまだまだ改善されていない。(R4制服改定)<br>▲個人情報やSNS上に掲載するケースがあり、ネットマナーに関する研修を進める。<br>▲学年団・担任と生徒指導部の共通理解がまだまだ不足している。 | A (B) C D  |   |
| 12 来年度に向けての改善方策案  |  |   |
| (1) 全校体制で予鈴前に教室に入る指導を行うことを提案する。(チャイムの鳴り始めで「遅刻」の徹底)<br>(2) 身だしなみや制服の着こなしについて、「身だしなみカード」の適切な活用の仕方を含めて検討する。<br>(3) 貴重品ボックスの適切な使用法について指導し、生徒の自己管理能力を向上させる。<br>(4) 心を育てる教育のために月1回の講話(講師は企画委員等)の実施を提案する。<br>(5) 問題行動が起きたときの対応について、誰もが初期指導できる体制を作る。(生徒指導力の向上)<br>(6) 全職員の共通理解をはかるため、職員会議や研修でルールなどを周知する機会をつくる。<br>(7) 保護者ともよく話し、気になることがあれば、職員に相談や報告をして「チーム」で対応する。<br>(8) 日々の言葉がけを意識する。(褒める、励ます、認める)(言ったり、言ってもらったりを増やす)  |  |   |

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月14日

### 【意見・要望・評価等】

- ・「全職員の共通理解」の項目が「C」であるが、情報が共有されるよう取組を進めてほしい。
- ・生徒はとても落ち着いており、教員の指導の賜物であると感じる。「遅刻や身だしなみ指導」や「ルールやマナーの遵守啓発」の自己評価は「A」でよいと思う。
- ・生徒がマナーに則って自転車や徒歩で通学する様子を見て、ルールやマナーが十分伝わっていると感じる。
- ・生徒の生命や人権、何より安全や安心確保のために丁寧に取り組んでいる。
- ・生徒の日々の行動をそれとなく褒め、自信と誇りを育てていくことにより、マナーや身だしなみはよい方向に変化していく。
- ・「指導」ではなく「育成」の気持ちで皆が向き合えると、よりよい化学反応が起きるような気がする。

|   |  |   |                            |  |
|---|--|---|----------------------------|--|
| 2 評価する領域・分野   | ◇ 進路指導   |   |                            |  |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の約7割が進路情報の提供や、進路指導のあり方について肯定的な評価をしている。コロナウイルス感染症拡大が収束せず、情報が不足しがちな中でも一定の進路指導が行えたのではないかと考える。</li> <li>・保護者の方からも、必要とする情報提供に関してや、生徒の進路希望に沿った適切な指導に関して、約6割から肯定的な評価を頂いており、一定の理解を得ていると考えられる。</li> <li>・アンケートに分かれないと回答した生徒や保護者の方へは、オンラインや紙面での情報提供にやや不十分な点があったと考える。今後の課題としていきたい。</li> </ul>                           |   |                            |  |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標  | ◇生徒の発達段階に応じた情報提供やキャリア教育を推進し、高校卒業後も見通した「生きる力」を身に付けるための指導を充実する。  |   |                            |  |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制  | ・進路指導部を中心とし、進路指導部内の各学年担当がイニシアチブをとり、各学年団と連携する。  |   |                            |  |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組   | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標  |   |                            |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 多様化する新入試制度に対応しうる学力の強化</li> <li>(2) 生徒一人一人の進路の実現に向けたガイダンス・講演会</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒のニーズに応える授業+αの取り組みとして補習授業が実施され、受験に対応できる学力が育成されているか。</li> <li>(2) 「総合的な探究の時間」やLHRを利用し、進路目標実現に向けて進路意識が高まり、進路決定に寄与するものとなっているか。</li> </ul>   |   |                            |  |
| 8 取組状況・実践内容等  | 9 評価視点   | 10 評価   |                            |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年：職業観・勤労観の育成<br/>キャリアガイダンス、インターンシップ、大学模擬講義、進路ノート、放課後補習、スタディサポート</li> <li>・2年：進路目標の設定<br/>進路講演会、インターンシップ、大学模擬講義、小論文指導、放課後補習、スタディサポート</li> <li>・3年：進路目標の実現<br/>受験ガイダンス、WEB講演会、小論文指導、面接指導、共通テスト受験生向け特別補習、放課後補習、スタディサポート</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 各種進路ガイダンスが、進路意識の高揚を図り、3年間を見通した段階的な支援となっているか。</li> <li>② 生徒が意欲的に進路関係の行事に取り組み、自己実現を目指して、入試等で努力できる支援となっているか。</li> <li>③ 受験・就職に対応できる学力・能力が身に付いているか。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>A ② C D</li> <li>A ② C D</li> <li>A ② C D</li> </ul> |                            |  |
| 11 成果・課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○共通テスト志願者数は約70%である。多様な進路に対応し、最後まで学力を付ける努力をさせる指導を行った。</li> <li>○進路講演会・キャリアガイダンス・模擬講義等をオンラインも活用しながら実施し、生徒の進路選択に役立てた。</li> <li>○模試を受験するにあたり、各教科で過去問を扱い対策をとるなど、学力をつけさせる指導を行うことが出来た。</li> <li>▲模試受験の前や後に、生徒の学力層に応じた働きかけをし、個別に対応した指導が必要である。</li> <li>▲総合型選抜や学校推薦型選抜で小論文や面接が必要になる生徒に対し、より早期から対策を行っていく必要がある。</li> </ul> |   | <p>総合評価</p> <p>A ② C D</p> |  |
| 12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立した学習者を育てるための指導の一環として、オンラインを活用した上位者指導を実施する。</li> <li>・進路実現のための教職員間の協力体制を強固なものとし、生徒や保護者が相談できる環境をさらに整える。</li> <li>・進学先で躓かぬよう、授業第一に最後まで学ぶ姿勢を貫かせる。</li> <li>・外部の教育力を精選して活用し、インターンシップ等、キャリア教育を充実させる。</li> <li>・保護者向け進路説明会を開催し、三位一体となって進路実現を目指す。</li> <li>・複雑化する入試制度に対応できるよう、最新の情報を常時提供していく。</li> </ul> |  |   |                            |  |

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月14日

### 【意見・要望・評価等】

- ・多くの生徒が進学希望で、複雑化する大学入試制度の中、丁寧に指導されていると感じる。また来年度に向けて「キャリア教育の充実」が視点にあることに共感する。どこの進学先を選択するかとともに、自分はどんな生き方をしたいのか、どんな地域社会人になりたいのか等、生徒自身が考える機会が増えることを願う。
- ・「各種進路ガイダンス」の自己評価が「B」であることは、少々残念である。1年生の早い段階から、高校3年間ですべきこと（ロードマップ）や評定の見方などを説明し、早期に目的意識を持たせる取組を採り入れてほしい。
- ・社会状況や入試の変化を捉えつつ、系統性を考え、学年に応じて取り組んでいる。インターンシップや地域課題探究型学習等の体験的・探究的な学びの成果を、総合型選抜や学校推薦型選抜等に引き続き繋げてほしい。
- ・コロナ禍の安定しない学習環境においてどのように指導していくのかは難しい問題だと思うが、やはり最も大切なことは「授業第一に最後まで学ぶ姿勢を貫かせる」ことである。
- ・就職は大きく言えば生涯にわたる問題なので、企業開発の専任教員の育成が大切になってくる。
- ・社会における対応力の指導を引き続き行ってほしい。

|  |   |                                     |
|--|---|-------------------------------------|
| 2 評価する領域・分野  | ◇特別活動<br>学校行事の企画運営、部活動の振興、ボランティア活動  |                                     |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等   | 約7割の生徒が部活動に所属し、文武両道を目指しながら学校生活を送っている。「部活動が活発である」というアンケート結果からも、部活動は生徒・保護者・地域からも期待され評価されている。  |                                     |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標   | 1 執行部が主体的に生徒会活動を企画し、広範囲な生徒参加を図り組織的な運営を目指す。<br>2 部活動の活性化のために必要な方策を探り、実績広報活動に努める。<br>3 新生祭・球技大会等の学校行事に全校生徒で取り組み、学校への帰属意識を高める。   |                                     |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制   | ・特別活動部と生徒会各委員会顧問（関係の分掌）、部顧問、学年会との協力体制。  |                                     |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組  | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標   |                                     |
| (1) 生徒会主体の学校行事の充実<br>(2) 学校行事・部活の実績の広報活動の充実  | (1) 学校見学会の際、中学生・保護者対象アンケート実施。その他行事アンケート実施。<br>(2) HPの有効利用。  |                                     |
| 8 取組状況・実践内容等   | 9 評価視点  | 10 評価                               |
| ・学校見学会で、生徒会主体による学校説明と、学校案内。アンケート実施。<br>・HPで学校行事の紹介、部活動の実績などのPR。<br>・すべての学校行事に、全校生徒・全職員で取り組み感動を共有する。<br>・コロナ禍での行事の精選。 | ①生徒のプレゼンテーションは分かりやすく行えたか。<br>②本校の行事や部活動に対して興味関心を持ってもらえたか。<br>③様々な学校行事や、部活動の取り組みにより学校への帰属意識を高めることができたか。  | A (B) C D<br>A B (C) D<br>(A) B C D |
| 11 成果・課題   | ○コロナ禍の中、弓道部が個人で、吹奏楽部3年連続で、全国大会出場を果たした。<br>○新生祭（文化祭）を2年ぶりに開催した。感染対策を徹底し、ルールを遵守し各クラスが協力して取り組むことができた。<br>○球技大会は昨年度の反省を活かし1年生と2,3年生に分けて行い、全職員、生徒の協力のもと、感染対策を徹底し安全に行うことができた。<br>○ボランティア活動は、リスクを考慮し、今年度は実施できなかった。 |                                     |
| 12 来年度に向けての改善方策案   | ・球技大会を、体育委員会がより生徒会と関わりながら運営に関与できるようにする。コロナ禍が続くことを想定しながら、状況に応じて生徒と考えながら企画・運営する。  |                                     |

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月14日

|  |
|--|
| <p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍にあって活動に制限がある中、生徒会行事や部活動等の実施は大変だったと思うが、良い高校生活の思い出が増えるよう工夫できるとよい。</li> <li>・部活動も行事も思うように行えない中、物足りなさを感じている生徒もいると思う。できる限り球技大会やICTを活用した文化祭など、感染リスクが少ない行事を実施できるとよい。</li> <li>・特別活動は、校訓「開拓者精神－創造・挑戦・協同－」に向けた教育活動の中核を担う領域であると思う。生徒会の取組や行事を通じて、生徒の合言葉として「開拓者精神（フロンティア・スピリッツ）」が語られるようになるとうい。まずは生徒に考える機会を与えるのもよいかもしれない。</li> <li>・昨今、部活動は社会問題化し、教員の負担軽減対象の第一に挙げられているが、生徒にとっては自己表現できるよい機会であり、自分に目覚める機会でもある。すべての教員でやろうとせず、外部講師への依頼、ボランティアの活用を大いに受け入れる工夫が望まれる。</li> </ul> |
|--|

|   |  |   |
|---|--|---|
| 2 評価する領域・分野   | 保健厚生（保健管理・安全管理）  |   |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等  | <p>・「地震や台風等の場合の対応について、生徒や保護者(地域)に対策マニュアルが知られている」86.4%概ね良好。「本校では清掃が行き届いており校内がきれいである」64.6% 今年度、本館1階中庭側の外壁の清掃、本館教室・廊下の窓ふきに取り組んでいる。残念ながら、これまで通常の掃除で窓ふきをしている所は少なく、大変汚れが目立っているのは否定できない。それ以上に、特別棟北側の窓や外壁は蜘蛛の巣が至る所に張り付き、窓ガラスも汚れが酷いのが現状。</p>                      |   |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標  | <p>(1) 保健管理の充実と保健指導の推進<br/> (2) 環境整備の徹底とマナー指導の徹底<br/> (3) 安全な施設設備の維持管理と防災意識の向上</p>   |   |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制  | 保健厚生部の中で保健・環境・防災・厚生の4つの分野に担当を分担。県の指標に基づき新型コロナウイルス感染症防止対策を最優先に実施する。また、防災に関する事業の見直しを段階的に進めていく。   |   |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組   | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標  |   |
| <p>(1) 協力を得て速やかな健康診断の実施と事後指導を実施する。<br/> (2) 感染症予防・感染拡大阻止に向けて全校体制で取り組み、周知徹底を図る。<br/> (3) 委員会活動を通して、資源ゴミの分別を徹底し、環境美化への意識やマナーの向上を図る。<br/> (4) 生徒・職員による定期安全点検を実施<br/> (5) 月1回の全員掃除を実施する。<br/> (6) 防災計画に基づいて年3回命を守る訓練を実施し、防災リーダーを養成する。また 危機管理の指導・防災意識の向上に努める。</p>  | <p>(1) 検診結果を分析。受診率の向上を確認<br/> (2) うがい・手洗いなど自主的な感染症予防策を実施し、継続的な指導により定着させる。<br/> (3) 委員会活動による掃除のチェックとゴミ回収所の分別状況の把握を実施し徹底する<br/> (4) 複数の目で安全を確認し、常に事故を予測する力をつける。<br/> (5) 生徒・職員の清掃の意識を高める。<br/> (6) 命を守る訓練での状況を把握・分析し、消防署員など専門関係者の講評や助言を受け、防災意識の向上に努める。</p> |   |
| 8 取組状況・実践内容等  | 9 評価視点   | 10 評価   |
| <p>(1) 各種健康診断や環境衛生の検査を実施。<br/> (2) 欠席状況調査で、生徒の健康状態や感染症防止対策を時宜に応じて実施した。玄関に自動検温器。各教室に手指消毒機器、消毒道具、サーキュレーター、CO2 測定器を教室常置した。また生徒用パーティションを早期に購入した。<br/> (3) 厚生委員会主導でゴミ分別の徹底を呼びかけ、回収場所では当番を付けて指導・監視をした。また、感染症防止対策の観点から、教室のペットボトル・缶専用のゴミ箱を撤去した。<br/> (4) 専門家の指導・助言を得て、教室内の安全点検を厚生委員会で実施する計画を立案した。<br/> (5) 月1回の全員掃除を実施した。<br/> (6) 緊急地震速報発令を想定した命を守る訓練を、休校措置で1回実施できず、代替として、防災講話で専門家よりDIGを実施して頂いた。</p> | <p>(1) 事後指導等を徹底できたか。<br/> (2) 感染症拡大防止に全校体制で取り組めたか。<br/> 生徒の健康チェック・手指消毒・黙食・換気の習慣化が高まったか。<br/> (3) 委員会活動を通じて、生徒の環境美化の意識が高まったか。<br/> (4) 施設設備の安全な維持管理に組織的に取り組み、未然に事故を防ぐ力と安全意識を高めたか。<br/> (5) 清掃・整頓に対する意識が向上したか。<br/> (6) 訓練・講話により、緊急時の対応力と意識が向上したか。</p>     | <p>(1) A B C D<br/> (2) A B C D<br/> (3) A B C D<br/> (4) A B C D<br/> (5) A B C D<br/> (6) A B C D</p> |



|                     |  |                              |
|---------------------|--|------------------------------|
| 11<br>成果<br>・<br>課題 | <p>○各種の健康診断や衛生検査は、職員の協力でスムーズに実施できた。事後指導及び措置もHR担任の協力を得て、措置完了者も順調に増えてきている。</p> <p>○保健委員会・厚生委員会の生徒は、保健管理や環境衛生に対する意識の高い生徒が多く積極的に活動することができた。更に委員会活動が活発化するように、指導していきたい。生徒自身の活動を活かしていくような計画を立案したい。</p> <p>○環境美化においては、職員室や準備室の清掃、職員トイレは教職員にお願いし、複数の掃除場所の監督にならないよう配置した。また月1回の全員掃除の平常との区別化を図るよう、職員に働きかけた。特に、窓ガラスの清掃はほとんどされないのが現状であることから、何らかの方法で取り組んでいけるよう考えたい。</p> <p>保健厚生部としては、来年度は特別棟廊下の窓ガラスの清掃に取り組みたい。</p> <p>○コロナ感染症長期化で感染防止対策がおざなりにならないよう、毎朝の健康チェック、手指消毒の呼びかけを管理職・副担任と実施した。担任には教室での健康チェックカードの確認や啓発など毎日実施していただいている。保健厚生部として防止対策として必要な消毒液などの消耗品をいち早く取りそろえ、その使用を全職員・生徒に周知徹底してきた。特に、昼食時の黙食習慣化のために個人用のパーティションを準備したことは、その早期実現に効果があったと思われる。また、校内各所に感染症対策を啓蒙する掲示物を掲げ、生徒への呼びかけ方法を工夫してきた。HR担任・教科担任・掃除担当、全校体制で感染症対策が実施できていることと生徒がそれを理解し実行していることの結果であると考えている。</p> | <p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p> |
|---------------------|--|------------------------------|

12 来年度に向けての改善方策

本校では、コロナ感染症対策は日常化・習慣化しているとはいえ、決して緩めず全校体制で継続していかなければならないと思う。同時に、各校務分掌とも連携して、コロナ禍での学校行事での感染症対策をさらに進めていかなければならない。

また、大地震の発生が叫ばれ異常気象による災害が多発している昨今、生徒の安全を守り、自らの命を守り、他者の命を守れる行動がとれる青年を育成していくために、従来の訓練を見直して生徒主体の啓蒙活動や生徒自身の体験・取り組みを増やしていけるよう計画・立案していきたい。

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月14日

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対策や環境美化等に、日常的・継続的に丁寧に取り組んでいる。引き続き、生徒の安全・安心を第一に取り組んでほしい。</li> <li>・コロナ対策の取組について、生徒も教職員も消毒など「もうこれ以上のことは難しい」と思えるほど徹底されているように感じるので、個別や総合評価は「A」でよいのではないかと。</li> <li>・大地震や異常気象等非常災害時の対策として、地域との連携をお願いしたい。</li> <li>・環境美化について、日々の意識を向上させることが大切である。2階以上の窓ふきは生徒の事故防止のため外部依頼がよい。</li> </ul> |
|--|

|  |  |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |
|--|--|---|---|---|----------|---|---|---|----------|---|---|---|----------|---|---|
| 2 評価する領域・分野  | 図書情報◇読書指導・視聴覚機器整備・情報教育・芸術鑑賞  |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書に興味をもつ生徒が比較的だが、それに比べて図書館利用者は少ない。</li> <li>・ほとんどの生徒がスマートフォンを持ち、SNS、LINE、メールなどで利用する時間が多い。</li> </ul>   |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 読書指導を推進し、図書館内の環境整備に努め、図書委員会が自主的に活動できるよう支援する。</li> <li>(2) 図書館木質化に伴い、利用しやすい図書館デザインを考え、書架などを効果的に配置する。</li> <li>2 視聴覚・放送設備を整備し、体育館や視聴覚教室での、LHR、総合的な学習の時間、各教科の授業を支援する。</li> <li>3 情報リテラシー教育・著作権教育を計画的に行い、情報モラル意識を養い、情報化社会への対応を促す。</li> </ol>  |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制   | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 図書館の効果的な利用を課題として、図書館だよりの発行や各種行事の企画・運営等、図書委員会の自主的な活動をバックアップする。</li> <li>(2) 図書館木質化の着工に際して、関係各所と連携を取りながら利用しやすい図書館のデザインを考えて構築し、書架などを配置する。また調べ学習、探究学習に対応できるよう、図書の充実に努める。</li> <li>2 視聴覚機器や視聴覚室の積極的な活用を促進するための研修会を実施する。また視聴覚機材や放送機材のメンテナンスに気を配る。</li> <li>3 情報化社会に対応できるよう、情報リテラシー教育及び著作権教育について、各教科・分掌と連携をとって計画的に実施する。</li> </ol> |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組  | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標  |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 図書館を利用しやすいよう整備し、図書委員による貸し出し、広報活動を行う。</li> <li>(2) 木質化による図書館整備計画を立てて、実行する。</li> <li>2 視聴覚・放送設備を整備し、授業などで使いやすいよう支援する。</li> <li>3 情報リテラシーの教育、またインターネット上や、配信授業におけるルール遵守を呼びかける。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 貸し出し統計や希望図書アンケートなどを分析し、貸し出しの増加と利用度を確認する。</li> <li>(2) 木質化に伴い、書架や図書などの配置が学校の実情に合っているかどうかを確認する。</li> <li>2 視聴覚・放送設備についての意見を収集する。</li> <li>3 アンケートやLHRで情報リテラシーやインターネットの利用状況を確認する。</li> </ol>   |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |
| 8 取組状況・実践内容等   | 9 評価視点   | 10 評価   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ① 図書委員会を中心とした広報活動。</li> <li>② 職員・生徒対象の希望図書の調査。</li> <li>(2) 木質化工事に伴う移転と効果的配置。</li> <li>2 視聴覚・放送機器の点検と整備</li> <li>3 情報リテラシー・著作権などの啓発活動。</li> </ol>                                     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 昨年度より図書館利用が増加したか。本校の実情に応じた図書館のデザインができたか。</li> <li>2 視聴覚機器や放送機器が使いやすいものであるか。</li> <li>3 生徒・教員に情報モラルの遵守が啓発できたか。</li> </ol>  | <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td><b>B</b></td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td><b>B</b></td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td><b>B</b></td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> |   | A | <b>B</b> | C | D | A | <b>B</b> | C | D | A | <b>B</b> | C | D |
| A  | <b>B</b>   | C   | D |   |          |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |
| A  | <b>B</b>   | C   | D |   |          |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |
| A  | <b>B</b>   | C   | D |   |          |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |
| 11 成果<br>○課題<br>▲  | <p>○読書週間などを利用して啓蒙活動を行ったが、感染症による休校と木質化工事のために貸し出し冊数は伸びなかった。希望図書アンケートや店頭選書などで生徒が希望する図書を整備できた。また、木質化工事のための移転・新しい配置は効果的にできた。</p> <p>○視聴覚・放送設備の整備は効果的にできた。</p> <p>○全学年で情報モラルLHRの計画を立てて、配信授業における著作権遵守についての啓蒙ができた。</p> <p>▲雑誌も含め生徒の意見を聞きながら、図書を整備していく。</p> <p>▲老朽化している視聴覚室について、全校規模で整備を考える必要がある。</p> <p>▲生徒への情報モラル教育を充実していく必要がある。</p>  |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |
| 12 来年度に向けての改善方策案   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 木質化は完了したが、さらに利用しやすい図書館を考えて、図書委員の自主的活動を進め、「生徒自身が作る図書館」を目指す。</li> <li>2 視聴覚室の設備について、改善計画も含めて全校規模で考えていく。</li> <li>3 情報モラル教育の全校的な計画を考える。また感染症で2年連続中止とした芸術鑑賞の新たな形を考える。</li> </ol>  |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |   |          |   |   |

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月14日

### 【意見・要望・評価等】

- ・素晴らしい木質の図書館が完成し、今後の活用に期待したい。
- ・木質化された図書館は明るく、気持ちのよい環境である。視聴覚設備についてはICT本格導入の流れに乗って、整備に着手できるとよい。図書館に検索用PCを導入するのもよいと思う。
- ・今日的に求められる教育活動（主体的・対話的で深い学び、各教科における探究、総合的な探究の時間等）に応じた図書を充実し、学習センターとして機能するよう、引き続き整備をお願いしたい。
- ・社会全体がフワフワしている現状で、落ち着ける場所としての開放はいかがか。また、啓発活動は工夫を凝らして継続してほしい。
- ・「生徒自身が作る図書館」は素敵で、新しいコミュニティが生まれる期待がある。

図書館木質化事業（R3）



|   |  |   |                              |
|---|--|---|------------------------------|
| 2 評価する領域・分野   | ◇ 教育相談   |   |                              |
| 3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「悩みや相談に親切に対応してくれる」では、生徒の70%強が肯定的で、20%弱がわからないと回答している。</li> <li>・「保護者の悩みや相談に適切に対処している」では、保護者の50%が肯定的で、40%弱がわからないと回答している。</li> <li>・「教育相談係やスクール相談員等が、個々の生徒の相談に丁寧に応じている」では、保護者の40%強が肯定的で60%弱がわからないと回答している。</li> <li>・個人情報の問題があり、該当者以外は知る機会はないと考えられる。</li> </ul>  |   |                              |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標  | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 問題を抱えた生徒に対する早期対応を目指し、生命を尊重し豊かな人間性と望ましい人間関係の確立を促すための、連携を密にした相談活動を展開する。</li> <li>(2) 各種検査、「日常生活に関するアンケート」を実施し、自立や自己実現の援助ができる活用を促す。</li> <li>(3) 特別な支援を必要とする生徒の教育的ニーズに応じて研修会を開き、組織的に対応する。</li> </ol>   |   |                              |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室、学年会と有機的な連携を取り、情報交換会において名前の挙がる生徒について、管理職、部長を交え組織的に方策を練り、担任を支援する体制。</li> </ul>   |   |                              |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組   | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標  |   |                              |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校生活への適応のため特に1年生に対しては、中学校との情報交換も交え観察しながら援助を進めていく。校内、家庭、外部機関との連携を密にする。</li> <li>(2) 各種検査、アンケートを実施し、生徒の自己理解を促すと共に職員の生徒理解に役立てる。</li> <li>(3) 特別支援教育の企画運営を行い、研修会を開催し、適切な支援のあり方を実践する。</li> </ol>  | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 常に最新の情報を共有し、連携を取り、生徒を援助しているか。</li> <li>(2) 各種検査やアンケート結果をもとに、生徒理解がなされ喫緊の問題に対応できているか。</li> <li>(3) 研修会が実りあるものとなり、特別支援が必要な生徒に、適切に支援できたか。</li> </ol>  |   |                              |
| 8 取組状況・実践内容等  | 9 評価視点   | 10 評価   |                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の初期指導としての構成的グループエンカウンターの手法を用いたクラス開き</li> <li>・年9回のスクールカウンセラーの活用事業の計画と、援助を必要とする生徒及び保護者の支援</li> <li>・教育相談便り（相談室紹介、SC日程、教育実習生のお悩み克服談等）による情操の涵養</li> <li>・学年会、情報交換会等における問題を抱える生徒の情報収集と迅速な対応</li> <li>・「クレペリン検査」「i-check」「日常生活に関するアンケート」の実施による生徒理解や問題の把握</li> <li>・本校SCによる「発達障害の生徒と関わる」研修会</li> </ul> | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 問題を抱えた生徒に対して適切な支援ができたか。</li> <li>(2) 担任や、学年会と連絡が密にできたか。</li> <li>(3) 各種検査やアンケート分析結果が生徒理解に資するものとなったか。</li> <li>(4) 特別支援教育が必要な生徒の情報収集及び支援ができたか。</li> </ol>  | <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> |                              |
| 11 成果・課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生の初期指導として、構成的グループエンカウンターの手法を用いたクラス開きを行うことができた。</li> <li>○校内及び家庭との連携を図り、状況を分析しつつ機会や役割を考え組織的な援助を実践することができた。また、保護者からの相談に対して担任と共に面談をし、継続的な相談に応じた。</li> <li>○県からの指示による「心のアンケート」を10回実施し、それに加えて「日常生活に関するアンケート」を年4回実施し、コロナ禍における生徒の困り感を拾い、担任とともに生徒の問題を迅速に把握し対応できた。また、「クレペリン検査」においては、専門家によるデータ分析結果説明会を開催した。</li> <li>○生徒の抱える問題について随時ケース会議、教科担任会議で共通理解を図り支援に繋がった。</li> <li>○ほぼ毎日スクール相談員が常駐するようになったことで、生徒や保護者を受け入れる体制ができ、じっくりと話を聞き支援することができた。</li> <li>▲「教育相談便り」の発行回数が減少した。</li> <li>○SCによる職員研修会では、発達障害の基本的な特徴と、生徒に関わるときの考え方について研修した。</li> </ul> |   | <p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p> |
| 12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談室登校、不登校問題に対処するため外部機関との連携を強め、ネットワーク作りも意図して進める。</li> <li>・個人差が多く多様な生徒のニーズに応えられるように、引き続き教員の資質向上及び共通理解を図る。</li> <li>・迅速な対応、専門機関への受診など、専門家のSCによるカウンセリング相談の日数が増えるとよい。</li> </ul>   |  |   |                              |

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月14日

### 【意見・要望・評価等】

- アンケートや各種検査等も活用し、生徒の様子を丁寧に把握していると感じる。生徒が抱えている困り感は様々であろうが、昨今の発達障がいや生徒自身の特性に起因する人間関係に深い悩みをもつ生徒が増えているような感じを受ける。まわりの大人が発達障がいへの理解と対応に意識を向けることも大切である。
- 生徒個人の問題の洗い出しや生徒間の問題の把握、そしてそれらの問題への対応など、きめ細やかになされていることが分かる。
- アンケート結果において「わからない」という回答が多く、自己評価をつけることが難しかったのではないかと。「わからない」を減らす努力が必要である。
- 構成的グループエンカウンターやスクールカウンセラーによる研修会、情報交換会等、さまざまな取組がなされている。引き続き、生徒の安心に向けた取組や職員の研修等を重ね、一人一人の状況に応じ、専門家や専門機関と連携しつつ、生徒に向き合ってほしい。
- 人の考えや想いをしっかり聞き、自分の考えや想いを人に伝えることで対話が生まれる。両方の力をバランスよく生徒に教えてほしい。社会で生きるため本当に大切な力だと実感する。



|   |   |                    |                 |
|---|---|--------------------|-----------------|
| 2 評価する領域・分野   | <b>渉外部</b> ◇「組織運営」「保護者、地域連携」  |                    |                 |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等  | ・事業がほとんど行えず、アンケートなども行えなかった。   |                    |                 |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標  | ◇各種のPTA行事の内容等を検討し、参加者が増加するよう改善をはかる。<br>◇.創立50周年に向け、同窓会と連携し式典を成功させる。   |                    |                 |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制  | ・PTA役員会、同窓会役員会および50周年記念事業実行委員会の充実   |                    |                 |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組   | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標   |                    |                 |
| (1) 文書、ホームページ、メールでの事業の通知<br>(2) PTAだより等での事業の報告  | (1) 各事業への参加者の人数<br>(2) 参加者からのアンケート結果  |                    |                 |
| 8 取組状況・実践内容等  | 9 評価視点  | 10 評価              |                 |
| ・少なく制限された状況であったが、50周年記念式典を開催した。<br>・事業がほとんど行えなかった。  | ①役員会等の開催と特に50周年に向けての取り組み<br>②PTA、同窓会事業  | A ② C D<br>A B ③ D |                 |
| 11 成果・課題  | ○50周年記念式典を、規模を縮小し、オンライン配信も活用しながら成功裏に終えることができた。また、記念講演は延期となったが、12月に3年生を対象に開催でき、非常に好評であった。<br>○役員会や実行委員会の方々が大変協力的で、事業の円滑な進行ができています。<br>▲ほとんどのPTAおよび同窓会事業が開催できなかったこと |                    | 総合評価<br>A ② C D |
| 12 来年度に向けての改善方策案<br>・50周年記念事業の中でまだ行われていない事業を、感染症対策を徹底しながら進めていく。<br>・今後も、PTA事業の精選や改善を考えていく。<br>・ネットを活用してのPTA、同窓会総会や事業などにさらに取り組んでいく。<br>・50周年を機に、同窓会の組織やホームページの展開を見直していく。 |   |                    |                 |

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月14日

|  |
|--|
| <p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAや同窓会事業がほとんど行えなかったということで自己評価が「C」となっているが、外部への情報発信は大切なので、頑張ってもらいたい。ZoomやYou Tubeを活用して、非接触型の活動を実施している団体はある。</li> <li>・コロナ禍において、行事のほとんどが行えなかったことはやむを得ないことだと思う。来年度もこの状況が続くと思うが、ICTを利用するなど可能な範囲でPTAや地域と連携してほしい。</li> <li>・「誇れる母校」となるべき情報を発信し続けてほしい。</li> </ul> |
|--|